

金城学院大学 薬学部 薬学科

渡邊 真一 教授

何もないところから、自分の手で何かを作り出すこと
昔からモノ作りが好きだった渡邊先生は、
大学の薬学部で化学の楽しさを知り現在の道へ。
人生の転機で出会った多くの人々のアドバイスが縁となってつながり、
現在は金城学院大学の薬学部で医薬品化学を教えていらっしゃいます。
ゼミでは学生たちとともに元素の特徴をいかした
“将来的に人の役に立つ”反応を研究、
何が起こるかわからない化学のすごさ、楽しさを通して
「どんな問題に当たっても、自分でその問題を解決できる力を
身につけてほしい」と日々教えていらっしゃいます。



化学の研究を通して未知の世界に挑戦し、
自分で問題解決できる人になってほしい

渡邊真一教授

東京理科大学大学院薬学研究科博士
前期課程修了、薬学博士。2006年より
金城学院大学薬学部助教授、2007年
同准教授、2013年同教授。専門分野は
薬化学、ヘテロ原子化学。研究テーマは
有機セレン化合物の合成と反応、有機
触媒のデザインと不斉反応への応用、薬
理活性化化合物の創製。日本薬学会、有
機合成化学協会、米国化学会所属。

有機化学への道は大学時代 恩師との卒業研究

小学生のころは天文学や考古学に興味を抱いていました。プラネタリウムにもよく足を運び、星や天体、宇宙などについていろいろと調べたりしたものです。しかし中学、高校と進むにつれて「天文学や考古学は仕事になりにくい」と思うようになりました。その一方で、「将来は人とかかわるような仕事がしたい」と考えるようになり、人の命や健康にかかわる薬学部へと進んだのです。薬学部といっても、大学には基礎薬学や医療薬学などさまざまな分野の学びがあります。私は昔から自分で何かを探したり、モノを作ったりすることが好きだったので有機化学の分野を選びました。

その有機化学の研究を続けるきっかけとなったのは、大学時代に所属していた研究室の先生との出会いです。当時、先生が研究されていた包接化合物について、私も一緒になって朝から晩まで研究に没頭しました。何もなかったところから化合物を作り上げることは、モノ作りが好きな私にとってはこの上なく楽しいことでした。研究を続けるうちに化学の楽しさや奥深さを知り、もっと勉強してみたいと思うようになったのです。

人生の転機の指針は、 聞く耳をもつこととつながる

卒業後は縁あって岐阜薬科大学に助手として11年間お世話になりました。私はこうした人生の転機でいつ

も「自分はまわりの人々に恵まれている」と実感しています。助手の仕事を紹介してくださったのも恩師ですし、留学や他大学での非常勤講師の仕事など、すべてまわりにいた方々のお力やご縁で経験させていただくことができました。もちろん、金城学院大学でこうして教鞭を執ることができるのも、さまざまな方々とのご縁があったのことに感謝しています。またその時々でいただいた多くのアドバイスが、今の私の人生の指針にもなっています。

こうした経験から、学生には「自分のまわりにいる人々と常にコミュニケーションを図り、話を聞くことを大切にしてほしい」と常々話しています。人生の先輩の方々の話を聞くことは、学生たちにとってきっとこれからの人生の参考になると思うからです。また私自身も学生の話をよく聞くこと、これまで自分がしてもらってよかったと思うことやアドバイスをしようという心がけています。そこから学生が何かを感じ、学んでくれたらと思っています。

問題解決能力を身につけて、 本当に強く優しい薬剤師に

現在はゼミで学生と一緒にヘテロ原子化学の研究を行い、複雑な化合物を創り出すため、元素の特徴を生かした“人の役に立つ”反応を調べています。化学反応は、実は料理と同じように物質を変化させるものなので、当初予測していたものと大幅に変わることがあり、学生たちも「最初に考え



留学先のボスBarbas教授と
Hilton Hawaiian Villageにて

ていたものとは全く違うものができる」と驚くことがよくあります。何が起こるかかわからない、それが化学のすごさであり、学びの楽しさでもあります。また迷ったり、考えたりと試行錯誤しながら研究を進める中で成果をまとめる作業は大変ですが、将来必ず役に立つと思います。学生にはこの研究を通して、未知の世界にチャレンジする力、何か起こったときにも自分で問題解決できる力を身につけてほしいと思っています。

世の中は今、めまぐるしく変化しています。特に医療分野は10年前とは全く状況が違います。変わり続ける仕事環境に加え、結婚や出産などこれから学生たちはさまざまな人生の転機を迎えることでしょう。しかし自分に問題解決能力や臨機応変に対応できる力が備わっていれば、こうした時代の流れの中でも、自分らしく力強く人生を歩んでいけると信じています。本当に強い人はどんな人にも優しくできる、それは薬剤師にとって一番大切なことです。学生たちには、大学でのさまざまな学びや経験を通して、本当に強く優しい薬剤師になってもらいたいと願っています。



渡邊先生はどんな人

渡邊ゼミの4年生と6年生の皆さんに、渡邊先生について伺いました。すると「実験でわからないところがあっても丁寧に教えてくれる」「面倒見がよくて優しい」という声が多く聞かれました。また「安心感がある」「先生といると心が癒される」「失敗しても、大丈夫と励ましてくれる」など、先生の優しいお人柄も伺えました。